**骨　子**

2017.2.19/小林

**全体のコンセプト**

* 既存の実務書が「唯物論」に偏っているのに対し、本書では「日本の文化と心」に着目してコンプライアンス実務に有益な知識を解説する。基本は、既存の知識を整理して並べる。
* 論文集的な作りとし、体系的・網羅的な内容としない。

**目次**

1序論／本書のねらい

2日本人の倫理観の特徴

3コンプライアンスに影響を与える心理的要因

4犯罪心理学・犯罪学から見たコンプライアンス違反

5 ケーススタディー：日本の文化や心理的要因からコンプライアンス違反の原因を探る

6 パワーハラスメントの原因と防止策

7日本の文化と心理的要因に着目したコンプライアンスのあり方

8日本の文化と心理的要因を考慮した内部通報制度のあり方

**内容**

1. **序論／本書のねらい**
* **コンプライアンスの現状**
* たび重なる不祥事を背景に企業等においてはコンプライアンスの重要性がより一層認識され、コンプライアンス確保のための組織体制の導入･強化も進んでいる。（経産省、大学、民間の報告書、調査等を参照して）
* しかしながら、コンプライアンス違反は後を絶たない。近年の主な違反事例を列挙し、その特徴・傾向を指摘する（もし、あれば）。
* **日本人の倫理観**
* 日本人の倫理観を示すいくつかの事例
* 外国人の指摘：W杯サッカーでゴミを拾って帰る、給水車の列に整然と並ぶ、その他
* 犯罪発生率の低さは世界トップクラス（犯罪統計等のデータを参照して）
* 不祥事を起こした組織人も家庭では道徳的な市民という「二面性」が多くの（ほぼすべての？）コンプライアンス違反事例において見られるのではないか。三菱自動車事件やオリンパス事件の役員社員は道徳的な家庭人だったのではないか。その他の事例も。
* **問題意識**
* なぜコンプライアンス違反は起きてしまうのだろうか？
* 一つの原因はコンプライアンス体制の不備（郷原等の専門家の見かた）。しかし、コンプライアンス体制が不備な会社すべてが違反を犯しているわけではない。
* コンプライアンス違反を犯すのは、常に人間。人間の心が人間に違反させ、違反を思い止まらせるのではないだろうか。人間の心に着目すべきではないか。
* 実務書（郷原信郎、浜辺陽一郎、高巌、金重凱之）を見ると、ほぼ体制論に終始し、人間の心の問題がほとんど、あるいはまったく触れられていない。その他の実務書、文献も参照。
* コンプライアンス確保のためには、人間の心の問題を解明することが必要ではないか。
1. **日本人の倫理観の特徴**
* **日本人の倫理観に影響を与えているもの**
* **信仰心の薄い日本人に仏教はどういう経路で影響を与えたか**
* 初詣、葬式等の機会に自然と仏教に関する知識を得て影響を受けている。
* お寺参詣の機会に複数の仏像が一か所に置かれていることをつねづね見ているので多神教を不思議に思わない。（阿弥陀如来や薬師如来、観音菩薩などなど）
* 信仰心ある家族から影響を受けている。
* 自分の家の宗旨に興味を持ち本を読み影響を受ける。（一般向けの書籍は多数あり）
* 日本史の教科書に仏教関係の記述あり。
* 歴史小説から影響を受けている。五木寛之、司馬遼太郎、海音寺潮五郎などの著作。
* NHK、民放に仏教紹介のテレビ番組あり。
* **信仰心の薄い日本人に神道はどういう経路で影響を与えたか**
* 初詣、七五三等の機会に自然と神道に関する知識を得て影響を受けている。
* 神社参詣の機会に複数の神がまつられ、木や岩が神聖なものとされているのをつねづね見ているので多神教を不思議に思わない。
* 信仰心ある家族から影響を受ける。（少ないか。）
* 神道に興味を持ち本などを読む。（一般向けの書籍は多数あり）
* **武士道は現代日本人にどのようにして影響を与えたか**
* 歴史小説、テレビ、映画から知識を得て影響を受けている。（忠臣蔵（歌舞伎、TVﾄﾞﾗﾏ、小説）、浅田次郎「壬生義士伝」、藤沢周平「蝉しぐれ」（TVﾄﾞﾗﾏ、映画）、同「武士の一分」（映画）、司馬遼太郎「宮本武蔵」、吉川英治「同」、柴田錬三郎「同」）
* 武士道に興味を持ち本などを読む。（一般向けの書籍は多数あり）
* 剣道の競技人口は約177万人、弓道は約14万人、なぎなたは不明（かなり少ないはず）
* **その他**
* 儒教：武士の必須科目であり武士道を経由して影響を受けている。
* 国民気質：島国・稲作等々の諸環境と長い歴史が国民気質を作り、それが倫理観に影響を与えている。
* **仏教からの影響**
* 仏教は煩悩から解放された「無我の境地」や「さとりの境地」を重視するが、これは自分の主張を捨てて大勢に順応しようとする姿勢につながるのではないか。この心のあり方は、和を尊ぶ長所になるが、その一方では自分の意見を言わない日本人の欠点になっているのではないか。これは、心理学的には他人の意見へ「同調」しやすい心理的傾向になっているのではないだろうか。（政治においては、ｻｲﾚﾝﾄ･ﾏｼﾞｮﾘﾃｨの多いことにつながっているのではないか？）
* 仏教の倫理性は、もともと厳しい戒律で形作られていたが、日本では民衆に仏教を広めるために戒律をゆるやかにしていった（意図的に？）。肉食、妻帯、離婚、般若湯OK。僧侶の堕落は信長による比叡山焼き討ちの理由にもなった。地獄の思想は歯止めにならなかった（キリスト教と何が違うのか？）。日本人の倫理性は宗教に根ざした部分が少ないことから、融通無碍・ご都合主義的なところがあるのではないか。これは倫理観に影響しているように思われる。
* 禅宗（臨済宗、曹洞宗）の座禅による「さとりの境地」イコール「魂の救済」という考え方は、とても個人主義的なものを感じる。つまり、自分だけの救済で満足してしまう、他人の救済に関心が薄い。このような宗教としての姿勢は、会社の中でおこなわれている不正に対して「われ関せず」の空気を作り出す一因になっているのではないだろうか。
* その他
* **神道からの影響**
* キリスト教等の一神教と異なり、神道においては、悪事をおこなうと地獄に落ちる（あるいは罰を受ける）という考え方はないようである。あったとしても、一般人はそれをほとんど意識していない。
* 神道の神々は、キリスト教等の一神教における絶対的な力を持つ神と異なり、山川草木あらゆるモノに宿る身近な存在である。したがって、このような神々は、自己の倫理観が問われる場面において歯止めとしての力にはなりえていないのであろう。
* また、神道には、仏教の戒律のような禁止事項・タブーは特になく、あるいはあっても非常に少ない（唯一、穢れを嫌うことか）。神道の教えから日本人の倫理観が影響を受けている部分は少ないのではないだろうか。
* ただし、神道は多神教であり、神は山川草木あらゆるモノに宿っていると考えられていることから、日本人の考え方には柔軟性があり、悪く言えば原則をすぐに曲げてしまう融通無碍（ルーズ）なところがあるのではないだろうか。
* 多神教の神道では、神は絶対的な存在ではなく相対的な存在であることから、善も相対的なものと考えられる傾向にある。したがって、家庭人としての倫理観と企業人としての倫理観が異なっても奇異に思われず、また、清濁あわせ呑むことが人格として評価されたりすることになる。これは、家庭においては善良な一市民が、組織の一員としては不正な事業活動に加担するという倫理観の二面性になって現れるように思われる。
* また、倫理観における融通無碍な考え方は、「水清ければ魚棲まず」（孔子）とのことわざを評価することにつながり、これは部下の小さなコンプライアンス違反を見逃すこととなる。これが続くと、ゆで蛙現象となって最後には重大な不祥事を起こすことにもつながりかねない。
* その他
* **武士道からの影響**
* 武士道には、桜の花に象徴されるような「潔さ」を尊ぶ心があり、これは倫理観に影響を与えていると思われる。この潔さが分かりやすい形で表れているのがスポーツではないだろうか。サッカー日本代表のラフプレーの少なさ（スポーツにおける遵法意識）や日本柔道の一本勝ちにこだわる潔さ（判定勝ちを潔しとしない）は、武士道精神の表れではないだろうか。
* 日本対韓国の野球観戦をしている日本人が韓国選手のファインプレーに拍手を惜しまなかったことに韓国人は驚いたとのことだが、これも武士道精神ではないか。「敵に塩を送る」という武士の情け、敵であっても優れた敵は尊敬してしまう潔さであろう。
* 武士道の「名誉を尊ぶ心」と「やせ我慢の精神」は、厳しい経営環境の中でも正しいことを貫こうとする企業人の姿勢に通じるものがあるのではないだろうか。なお、池井戸潤「下町ロケット」、同「下町ロケット・ガウディ計画」に出てくる主人公の社長は武士道精神を感じさせる経営者。
* 武士の切腹の文化は苛烈な責任追及の文化を象徴しており、現代のコンプライアンスのあり方に悪い影響を与えているように思われる。一つの実例としては、JR西日本の日勤教育に見られる苛烈な責任追及と軽視される原因追及・再発防止であろう。
* その他
* **儒教**
* 武士道を経由しての間接的な影響と思われるが、具体的に儒教の教えの何が影響を与えているのかは判断困難。あまり踏み込まないでよいかと思われる。
* **国民気質**
* 甘えの構造：部下はﾙｰﾙ違反を許してもらえると上司に甘える。上司はこの甘えに応えて違反を許してしまう。いわゆる馴れ合いの関係ができ、不祥事の温床になるのではないか。
* 他者依存の自己規定：これは他人の気持ちを察することがよしとされる「察しの文化」や「思いやりの文化」に通じるものがある。日本人は他人の気持ちを察する傾向が強く、他人の意見と自分の意見をどう調和させるかを得意とする。他人の意見に同調しやすい。この対象同化の心的構造は甘えの構造に通じるものである。
* ウチ･ソトの文化：日本人は、ウチの人間どうしの連帯意識が強化されやすく、その一方でソトの世界に対して関心がうすい。つまり、ムラ意識・ムラ社会である。世間の目は気にするが世間に対して関心がうすい。このウチ向きの連帯意識の強さは、企業においては不祥事の温床になりやすいのであろう。また不祥事が露見した場合、ウチ向きの連帯意識は組織防衛のための隠ぺいに走る傾向があるのではないだろうか。
* **上記のまとめ－日本人の倫理観の特徴**
* 要検討
1. **コンプライアンスに影響を与える心理的要因**
* コンプライアンスに従った行動をとろうとしても心理的要因でそれが困難なことがある。たとえば、会社においてこういうことを経験したことはないだろうか。会議でルール違反の意見が出されそれに追随する人が現れると反対意見が言いづらい（同調）。上司から強く言われるとおかしいと思っても従ってしまう（服従）。その他いくつかの事例。
* 心理的要因をコンプライアンスを切り口にして解説し、コンプライアンス違反の防止策を示す。
* 同調
* 服従
* 集団浅慮
* 置き換え
* 攻撃者への同一化
* 過剰適応
* ゆで蛙現象
* 権威主義
* その他
1. **犯罪心理学・犯罪学から見たコンプライアンス違反**
* コンプライアンス違反の中でも企業犯罪・企業内犯罪といわれるものは、犯罪心理学の考え方が適用できるのではないか。価格ｶﾙﾃﾙ、虚偽表示、脱税、不正経理、ｲﾝｻｲﾀﾞｰ取引、賄賂、ﾘｺｰﾙ隠し、注文書偽造、カラ出張、口銭ｷｯｸﾊﾞｯｸ、等々。
* 犯罪心理学・犯罪学等の考え方から企業犯罪をおこなう人の心理を解明し、その防止策を示す。
* 割れ窓理論：軽微犯罪を放置していると重大犯罪を引き起こす
* ｿｰｼｬﾙ･ﾎﾞﾝﾄﾞ理論：会社への愛着、同僚との交友、仕事・趣味への没頭等々が犯罪を抑止する
* 犯罪機会論：犯罪をおこなう機会を除去すれば犯罪はなくなる
* 犯罪抑止の三要素：(1)抵抗性、(2)領域性、(3)監視性
* 環境犯罪学の犯罪予防対策：(1)犯罪者の手間の増大、 (2)リスクの増大、 (3)見返りの減少、 (4)挑発の削減、 (5)言い訳をさせない（東大院・高木大資講師）
1. **ケーススタディー：日本の文化や心理的要因からコンプライアンス違反の原因を探る**
* ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ・不祥事関係の書籍は原因の解明が不十分、日本の文化や心理的要因から説明しているものはほとんど見あたらない。岡本浩一教授の著作のみか。
* ちなみに、不二家での消費期限切れ牛乳使用事件について、郷原弁護士は法令さえ守っていれば良いと考えていたことが原因と分析している（Zaiten2016.11）。この見解は日本人の倫理観を無視している。（九州電力やらせメール事件についても同様）

→ 通常の日本人の倫理観として消費期限切れの牛乳を使ってはいけないのは当然のこと、法令違反であろうがなかろうが。その当然のことがなぜ守られなかったのかを究明しなければいけない。

* 違反事例の原因を日本の文化や心理的要因から解説する。
* 違反事例の原因分析において日本の文化や心理的要因を無視しているため間違った原因を導き出している事例を批判的に解説する。
1. **パワーハラスメントの原因と防止策**
* 片田珠美（精神科医）「上司という病」（青春新書、2015年11月）を参考にして原因と防止策を提言する。
* 学校のいじめ問題と類似点あり→ 防止策を提言する。
* パワハラか否かの境界線があいまい、境界線上のパワハラは見逃されやすい
* パワハラは指導や指示命令等の乗り物にのっておこなわれる、一見パワハラに見えない
* 上司への遠慮で周囲の者は傍観者になりやすい、誰も上司を注意しない
* そうすると上司はパワハラが許容されていると勘違いしさらにパワハラをする
1. **日本の文化と心理的要因に着目したコンプライアンスのあり方**
* 要検討
1. **日本の文化と心理的要因を考慮した内部通報制度のあり方**
* 要検討

以上